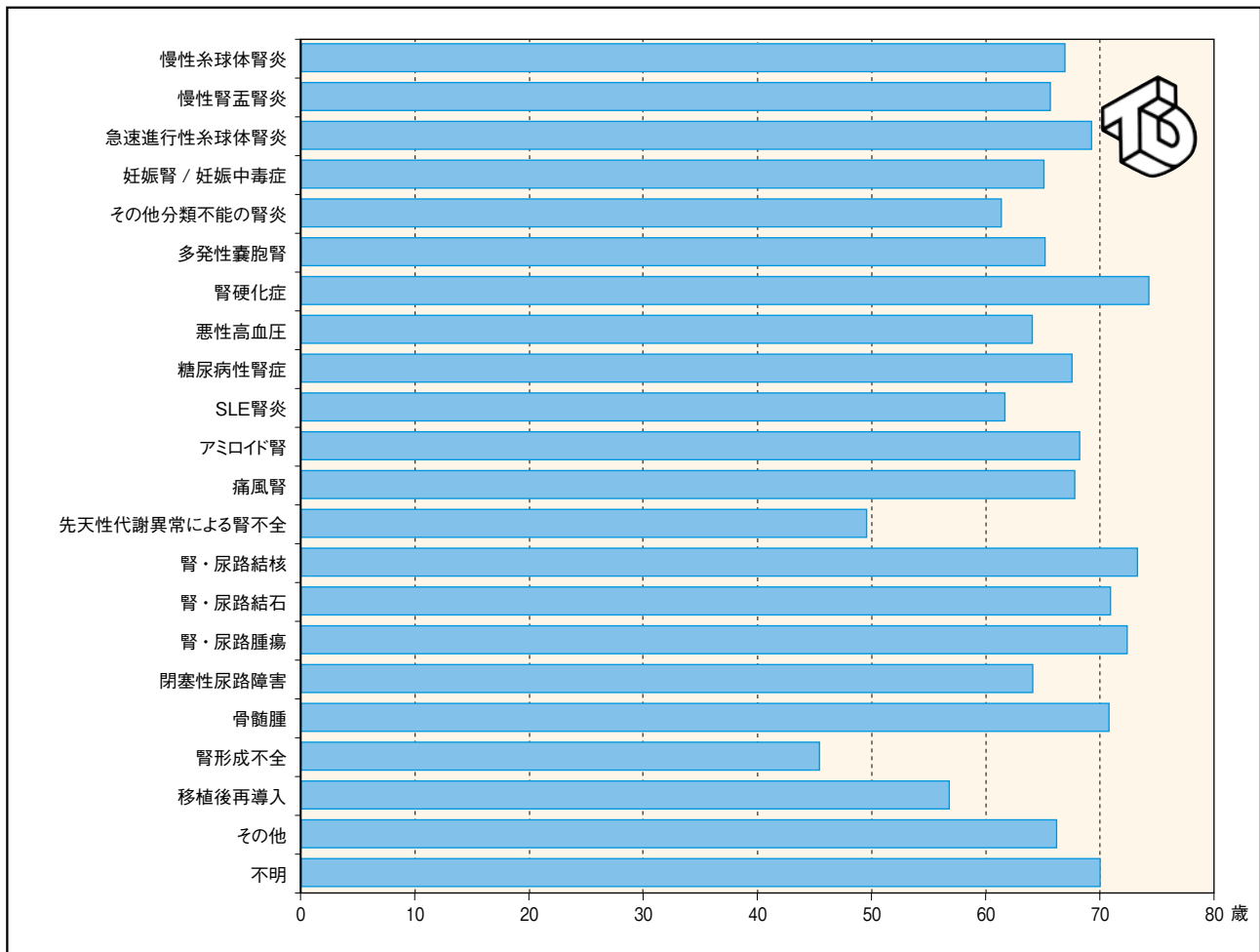


## 4) 年末患者の現状

(4) 年末患者の原疾患別人数と平均年齢 (図表14)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	93,347 (29.8)	66.90	12.46
慢性腎盂腎炎	2,935 (0.9)	65.62	13.84
急速進行性糸球体腎炎	2,478 (0.8)	69.23	12.93
妊娠腎 / 妊娠中毒症	1,545 (0.5)	65.06	10.23
その他分類不能の腎炎	1,405 (0.4)	61.33	16.85
多発性嚢胞腎	11,256 (3.6)	65.16	11.37
腎硬化症	29,805 (9.5)	74.25	11.74
悪性高血圧	2,618 (0.8)	64.04	14.88
糖尿病性腎症	120,278 (38.4)	67.52	11.33
SLE腎炎	2,227 (0.7)	61.64	13.68
アミロイド腎	462 (0.1)	68.19	11.35
痛風腎	1,075 (0.3)	67.76	11.37
先天性代謝異常による腎不全	274 (0.1)	49.53	17.23

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	195 (0.1)	73.25	8.86
腎・尿路結石	581 (0.2)	70.89	11.13
腎・尿路腫瘍	910 (0.3)	72.35	10.55
閉塞性尿路障害	730 (0.2)	64.08	16.36
骨髄腫	291 (0.1)	70.76	10.83
腎形成不全	660 (0.2)	45.40	19.35
移植後再導入	2,183 (0.7)	56.77	12.54
その他	8,044 (2.6)	66.17	15.45
不明	29,897 (9.5)	69.98	13.12
合計	313,196 (100.0)	67.86	12.49
記載なし	21	70.52	11.36
総計	313,217	67.86	12.49

患者調査による集計

数値右のかっこ内は列方向の合計に対する%です。

### 解説

2011年末から年末患者の原疾患においても糖尿病性腎症が第一位となった。2015年末には糖尿病性腎症は38.4%を占めた。第二位は慢性糸球体腎炎で29.8%であった。2014年末と比べ糖尿病性腎症は0.3ポイント増加し、慢性糸球体腎炎は15ポイント減少した。2014年末には、糖尿病性腎症と慢性糸球体腎炎との差は6.8%であったが、2015年末にはその差が8.6%とさらに拡大した。さらに、患者数においても2013年末以降、慢性糸球体腎炎の患者数が10万人を下回るようになった。

慢性糸球体腎炎の平均年齢は66.90歳、糖尿病性腎症は67.52歳、腎硬化症は74.25歳であり、それぞれ前年と比較し0.36歳、0.19歳、0.26歳増加した。透析導入患者同様、腎硬化症の平均年齢が高く、先天異常にともなう腎疾患の平均年齢が低いなど、原疾患別平均年齢は原疾患自体の臨床的特徴に影響される部分が多い。